



「特別の教科 道徳」の評価

～「指導と評価の指針」の活用を含めて～

2019. 9

明星大学・
青山学院大学
大原 龍一

2018年度（中学校は2019年度）から、「特別の教科 道徳」が完全実施となっています。各学校におかれましても、順調にスタートされているのではないのでしょうか。

そこで、「『特別の教科 道徳』の開始に当たって」に引き続き、道徳科の評価に関するリーフレットを作成いたしました。年度末までにはまだ時間がありますが、毎時の授業の蓄積があってこそその評価です。ぜひ活用していただき、よりよい評価に役立てていただければ幸いです。そして、「指導と評価の一体化」と言われるように、日々の授業の充実にもご尽力いただければと願っています。

I 「道徳科の評価」で留意したいこと

(1) とにかく、毎週授業をすること！

授業における児童、生徒の学びの記録（学習状況や成長の様子）を整理しましょう。

(2) 道徳科（道徳の時間の指導）の評価であって、日常生活の様子を見る「所見」とは区別しましょう。

(3) 児童、生徒の「道徳性」については評価しません（できない）。

★しかし、道徳科の授業では、児童、生徒の「道徳性」を養うことがねらいです。

（道徳性：道徳的心情、道徳的判断力、道徳的实践意欲と態度）

ですから、子ども一人一人が道徳科の授業において道徳性を養うそのプロセス、すなわち「**学習状況や成長の様子**」を記述しましょう。

(4) 個人内評価、発達障害の児童、生徒への配慮、他の児童、生徒と比較しないこと等に留意しましょう。

II 道徳性を養うために行う道徳科における学習【学習状況や成長の視点の視点】

(1) 道徳的諸価値について理解しているか。➡ ねらいとする道徳的価値

●価値理解：「内容項目」が人間としてよりよく生きるうえで大切であることを理解する。

●人間理解：大切であっても、なかなか実現できない人間の弱さを理解する。

反対に、できた時のすがすがしさを感じるのも人間の「よさ」である。

●他者理解：道徳的なものの見方、考え方は一つではなく、人それぞれ多様であることを理解する。

(2) 自己を見つめているか。

●道徳的価値を自分のこととして考えたり、感じたりする。

(3) 物事を多面的・多角的に考えているか。➡ 道徳的な見方、考え方が多様にできる。

●多面的：違う側面から見ることで、別の見方、考え方をすることができる。

●多角的：関連する道徳的価値（内容項目）に広がりをもたせて考えたり、思ったりする。
他の道徳的価値とのつながりなどを理解する。

(4) 自己の生き方についての考えを深めているか。

●今後の生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができる。

III 評価の具体

(1) 道徳的諸価値について理解する

「内容項目」の説明をよく理解する
（小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」）

価値理解

「内容項目」に示されていることが、人間としてよりよく生きるうえで大切なことを理解する。

- 発達段階に即した低・中・高学年における「内容項目」の違いを理解する。
- また、それが教材のどの部分に示されているか、教材分析をする。
（中心発問の子どもの反応で上記のことが表現されているか、発言やワークシートから見取る）

■内容項目 B（友情、信頼）を例にとると……（小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」より）

〔第1学年及び第2学年〕友達と**仲よくし、助け合う**こと。

〔第3学年及び第4学年〕友達と互いに**理解し、信頼し**、助け合うこと。

〔第5学年及び第6学年〕友達と互いに信頼し、**学び合って**友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。

➡発言やワークシートの記述において、
〔低学年では〕「**仲よくすること、助け合うこと**」についての「よさ」が言及されていればよし、
〔中学年では〕 それに加え、「**（相手）を理解する**」「**信頼する**」ことの大切さに気付いていればよし、
〔高学年では〕 さらに、「**学び合って**」切磋琢磨することの大切さに気付いていればよし、とする。

（例）「絵はがきと切手」の学習では、兄と母の意見に迷い、葛藤しながらも「きっとわかってくれる」という相互に理解することの大切さに気付いていました。中学年としての目標とする道徳的価値のよさについて理解しています。

<教師の補助簿に、その児童の学習状況として記録しておく。以下の例示も同様>

人間理解

「内容項目」について、できなかつたり迷つたりする弱さ、反対にできた時のすがすがしさを理解する。

- 主人公のように考え、行動できるとよいことはわかっている。でも、できない自分や迷っている自分もいる。
- また、様々な登場人物の人間模様について共感したり、心情がわかつたりする。

（例）「はしのうえのおおかみ」の学習では、意地悪をしてはいけないと思っているが、ついついそうしてしまうおおかみの気持ちなど、人間の弱い部分にも目を向けることができました。さらに、「親切にすると気持ちよい」など道徳的価値を実現した時のすがすがしさについても理解していました。

他者理解

「内容項目」について、しっかりとした自分の意見をもちつつも、他者の考えや思いとの異同について理解する。
また、道徳的価値を実現したり、実現できなかつたりする場合の感じ方、考え方は一つではないことも理解する。

（例）「正直、誠実」について学んだ「手品師」の学習では、ねらいとする道徳的価値の大切さを男の子の立場から考えたり、手品師自身の立場から考えたりするなど、多様な立場から捉えることができました。また、話し合いを通して友達の考えと自分の考えの同じところや違うところを整理して考えることができています。